

「ゆめさやか」の良質米安定生産のための生育指標

福島県農業試験場 冷害試験地
平成14～16年度福島県農業試験場試験成績概要
分類コード 01-01-13256970

部門名 水稲—水稲—施肥法、生育診断予測、阿武隈山間、会津山沿い
担当者 矢島 豊・小森秀雄

I 新技術の解説

1 要旨

- 玄米の等級1等およびタンパク含有率7.5%以下を前提とした会津山間地域における目標収量は65.0kg/aであり、窒素施肥体系は基肥0.6～0.8kg/a＋減数分裂期追肥0.2kg/aが適当である(表1)。また、阿武隈山間地域における目標収量は55.0kg/aであり、窒素施肥体系は基肥0.6kg/a＋減数分裂期追肥0.2kg/aが適当である(データ省略)。減数分裂期追肥は米粒肥大効果が高く、米粒がやや薄い特性を補うことが可能である(表1)。
- 目標収量を得るために必要な成熟期の生育量は、会津は稈長85.0cmおよび籾数3.6万粒/m²程度、阿武隈は稈長82.0cmおよび籾数3.4万粒/m²程度である(表2)。また、幼穂形成期の生育量は、会津は草丈65.0cm、茎数600本/m²程度および葉色39.0～42.0、阿武隈は草丈65.0cm、茎数550本/m²程度および葉色38.0～41.0を確保する必要がある(表2)。
- 幼穂形成期追肥(出穂20～25日前)は品質が安定しないため(図1)、葉色39.0未満(会津)および38.0未満(阿武隈)の場合のみ、最低限の籾数確保を目的として窒素成分0.2kg/a程度を施用する。
- 減数分裂期追肥(出穂10～15日前)は、追肥による玄米タンパク含有率の上昇を避けるため、葉色40.0以下(会津)および葉色39.0以下(阿武隈)の場合に窒素成分0.2kg/a程度を施用する(図2)。
- 刈り取り適期は、出穂後積算気温900～1100℃の期間である(図3)。

2 期待される効果

「ゆめさやか」の良質米の安定生産が図られる。

3 適用範囲

会津山間および阿武隈山間地域の「ゆめさやか」の作付け地域

4 普及上の留意点

過剰な基肥は籾数の過剰と耐倒伏性の低下を招き、「ゆめさやか」の特徴である良食味、高品質を損なう恐れがある。したがって、基肥量は地力および堆肥の施用量等を勘案して調整する。

II 具体的データ等

表1 窒素施肥量と成熟期の生育および収量(会津2004年・玄米粒厚1.9mm以上)

窒素 施肥量 ¹⁾ (kg/10a)	成熟期			籾数		登熟 歩合 (%)	千粒重 (g)	玄米重 (kg/a)	等級 ²⁾ (1-9)	倒伏度 (0-400)
	稈長 (cm)	穂長 (cm)	穂数 (本/m ²)	一穂 (粒)	m ² 当 (×100粒)					
8-0-0	81.4	16.2	405	80.9	328	92.2	21.0	58.6	3.3	3
8-2-0	81.4	16.9	442	81.9	362	91.7	21.0	67.5	3.3	23
8-0-2	83.6	16.4	431	81.9	353	90.7	22.0	61.3	3.0	3
8-0-0	81.0	16.2	410	79.6	326	90.9	20.7	60.3	3.0	8
8-2-0	88.1	17.0	486	81.0	394	89.7	20.7	66.0	3.0	43
8-0-2	83.7	16.4	397	81.6	324	91.2	21.8	63.6	3.0	5

1)基肥-幼穂形成期追肥-減数分裂期追肥

2)福島県農政事務所地域第一課による1-9段階評価値(1:上上～9:下下)

表2 収量水準別の各生育ステージにおける適正生育量

収 量 水 準	幼穂形成期		減数分裂期	成 熟 期		
	草 丈	茎数/m ²	葉 色	葉 色	穂 長	初数/m ² 登熟歩合
65.0kg/a(会津山間)	65.0	600	39.0～42.0	40.0	85.0以下	3.6万 85.0以上
55.0kg/a(阿武隈山間)	65.0	550	38.0～41.0	39.0	82.0以下	3.4万 80.0以上

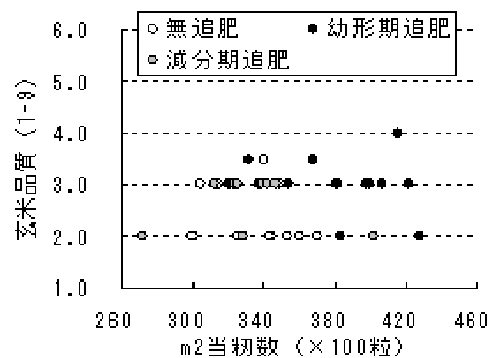


図1 穂数と品質（会津）

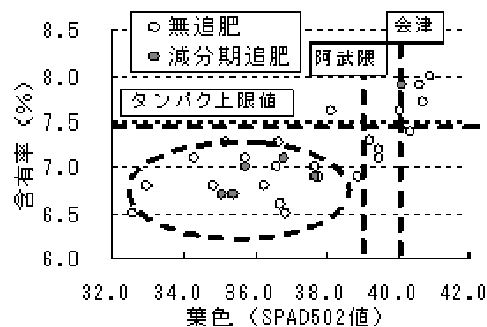


図2 減分期葉色と玄米タンパク含有率（穂数3.4万粒以上）

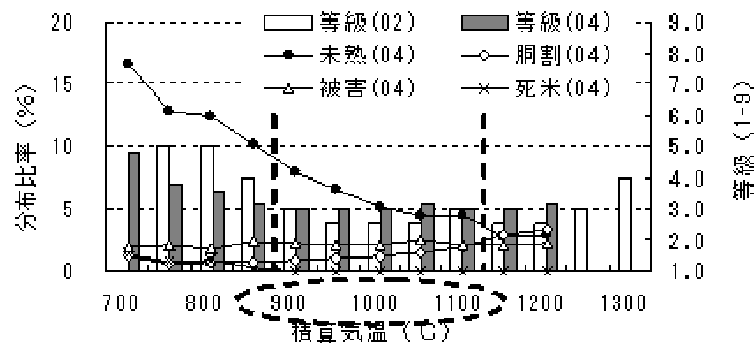


図3 出穂後積算気温による品質の推移

Ⅲ その他

1 執筆者

矢島豊、星源昭

2 主な参考文献・資料

なし